磐女の仲間達に訴えます！

逃げないで下さい！

あなたの何気なく発したくわからない〉〈カンケイナイ〉…etcという言葉が、どれほど政治的で犯罪的であるか —— 昨日、福島地裁において真に教育を問うところの磐高裁判の判決があり 私たちの学友も傍聴した。そしてそれに対する学校側の弾圧が我々の無意識という意識の中で開始されている。11日の各ホームルーム（特に参加しそうな者のいるクラス）での訓告，12日の異常な欠席者チェック、家庭への電話連絡、そして13日早朝の、傍聴参加が確認された者への家庭訪問等……。それら種々の弾圧の中で彼女たちの家庭は破壊され、親子は険悪の状態に陥らざるを得なかった。ある父親は会社を辞めるとまで言いだしたのである。また更に学校側は、彼女たちの自己の判断、〈授業〉よりも〈傍聴〉を有意義と選択したにもかかわらず、それを全く無視し処分を下そうとしているのだ。それこそはまさに、磐高の斗いと融合するものである。磐女という分断された環境の中で、教師は我々を政治的に無能にし、〈傍聴〉という法律的保障された当然の権利さえも奪い去ろうとするのか。私たちは、まだまだ幻想的である教師の像を打ち砕き、真に教師を監視し、学友に対しての暴挙を断じて許してはならない。学友へ処分を出させてはいけないのである。

—— 磐女有志 ——

最も人間的に生きようとする者が
何故、このように非人間的に
扱われなければならないのか？！